経済の見方

現代社会　憲法　政治　**経済**　国際社会　これから

今日の問い

限りあるものを、私たちはどう選び、どうやりとりしているのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 経済の見方

希少性と選択

希少性（きしょうせい）
欲しいものに比べて、資源や財が足りないこと。

財（ざい）
食べ物や服など、形のある商品。

機会費用（きかいひよう）
あきらめた選択肢のうち、最も価値の高いもの。

私たちの暮らしは、食べ物や服などの形のある**財**と、医療や教育、運送などの形のない**サービス**によって支えられている。これらを生産し、売買し、消費する活動を**経済**という。人間の欲求には限りがないが、土地や資源、お金、時間など、欲求を満たすための手段には限りがある。このように、欲求に比べて資源などが足りない状態を**希少性**という。

希少性があるため、私たちは限られた中で何を選ぶかを**選択**しなければならない。たとえばお小遣いで本を買うと、そのお金で別の物は買えない。このように、一方を選ぶと他方をあきらめなければならない関係を**トレードオフ**という。あきらめた選択肢のうち最も価値の高いものを**機会費用**とよぶ。個人も企業も政府も、このような選択をくり返している。

2 分業と交換・貨幣

貨幣のはたらき

分業（ぶんぎょう）
仕事を分担し、人々が得意なことを行うこと。

貨幣（かへい）
物を買うときに使う、お金のこと。

現金通貨（げんきんつうか）
紙幣や硬貨など、手でさわれるお金。

昔は、自分に必要な物を自分で作る自給自足の暮らしが中心だったが、今は人々が仕事を分担する**分業**が発達している。得意なことに専念することで効率よく生産でき、多くの物が作られる。ただし、自分で作らない物は、他の人との**交換**によって手に入れなければならない。たがいが納得してはじめて交換が成り立つ。

交換のとき、物と物を直接交換するのは不便なため、お金である**貨幣**が使われる。貨幣には、物と交換できる**交換手段**、物の価値をはかる**価値の尺度**、ためておける**価値の保存**（価値の貯蔵とも）の三つのはたらきがある。貨幣には、紙幣や硬貨などの**現金通貨**と、銀行の口座にある**預金通貨**があり、近年は電子マネーなどのキャッシュレス決済も広がっている。

はたらき	内容
交換手段	物やサービスと交換できる
価値の尺度	物の値打ちを数字で表せる
価値の保存	使わずにためておける

問いへの答え

欲求に比べて資源や財が限られる希少性があるため、私たちは何を選ぶかを考える選択をしており、一方を選ぶと他方をあきらめるトレードオフがある。また、人々は分業で効率よく生産し、物を交換しており、その仲立ちをする貨幣は、交換手段・価値の尺度・価値の保存のはたらきをもつ。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

学校・家庭・塾・教室での印刷と配布は自由です。ウェブへの掲載・販売はできません。